

中経連

5・6

2023 May・June

Vol.365

未来につなぐ
地域の文化

国の伝統的工芸品「木曾漆器」



千字
万感

株式会社日立製作所
中部支社長執行役員
湯次 善磨

明日への
チャレンジ

西川コミュニケーションズ株式会社
社会の変化に対応する全社を挙げた
「学び」の推進
～トップの決断・行動が会社や社員を変える～

- 2023年度事業計画
- 報告書：産学連携による人材の育成に向けて
- 第1回 中部圏広域産学官連携協議会
- 中部だより：広域大連携！「家康街道で地域の魅力をつなげるプロジェクト」

CONTENTS

1 千字万感

いいね👍名古屋

株式会社日立製作所 中部支社長執行役員 湯次 善磨

2 2023年度事業計画

6 報告書：産学連携による人材の育成に向けて

9 第1回 中部圏広域産学官連携協議会

10 東海地域経済懇談会

12 Garage Nagoya Topics

15 中部の魅力を語る なでしこの会 イベント

「中部のイトコ再発見 女性リーダーが語る魅力」

16 委員会活動

19 中経連ダイジェスト

24 明日へのチャレンジ

西川コミュニケーションズ株式会社

社会の変化に対応する全社を挙げた「学び」の推進

～トップの決断・行動が会社や社員を変える～

28 中部だより

広域大連携！「家康街道で地域の魅力をつなげるプロジェクト」

30 中部圏の景況感の現状と見通し

34 中部圏主要経済指標



表紙 | 未来につなぐ地域の文化

国の伝統的工芸品「木曾漆器」(長野県塩尻市木曾平沢、写真提供：長野県塩尻市産業政策課)

中山道の贄川宿と奈良井宿の間に位置する木曾平沢は「木曾漆器」の産地。漆工町として、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された町並みは、工房を伴う木曾漆器販売店が軒を連ね、職人が漆器づくりの伝統技術を守っています。木曾の漆器づくりは、17世紀初頭に、ヒノキをはじめとする良質な木曾の森林資源で作られた木製品を丈夫にするため、漆を塗ったことが始まりと云われています。江戸時代に中山道が主要五街道のひとつとして整備されると、木曾は宿場町として栄え、めんば(弁当箱)や櫛などで木曾漆器も全国的に知られるようになりました。明治時代以降は、高級調度品やホテル・旅館の座卓やコタツ板などの大物製品も手掛け、他地域より頑丈で質の高い漆器として人気を博しました。代表的な漆塗技法のひとつに木目の美しさが特徴の「木曾春慶」があります。現在は社寺建造物などの文化財修復に技法が使われるほか、多様化する生活様式に合わせ、箸やワイングラス、アクセサリなどのさまざまな小物製品も作られています。また、毎年6月には「木曾漆器祭」が開催され、職人たちの銘品・逸品が販売されます。2023年は6月2日(金)～4日(日)開催。

参照：長野県塩尻市HP (<https://www.city.shiojiri.lg.jp/>)

木曾漆器祭・奈良井宿祭HP (<http://shikki-shukuba.shiojiri.com/>)

